

首都圏CCS事業の現況説明 (CN実現に向けたCO₂分離回収・貯留事業にかかる調査等)

2026年8月6日

首都圏CCS株式会社

首都圏CCS事業パートナー



関東天然瓦斯開発株式会社
Kanto Natural Gas Development Co., Ltd.

■ 令和8年7月6日より、CCS評価井1坑目である「九十九里沖J-1」の作業を開始いたしました。

本須賀海水浴場からの景観



掘削リグ「HAKURYU-10」



掘削リグの大きさ

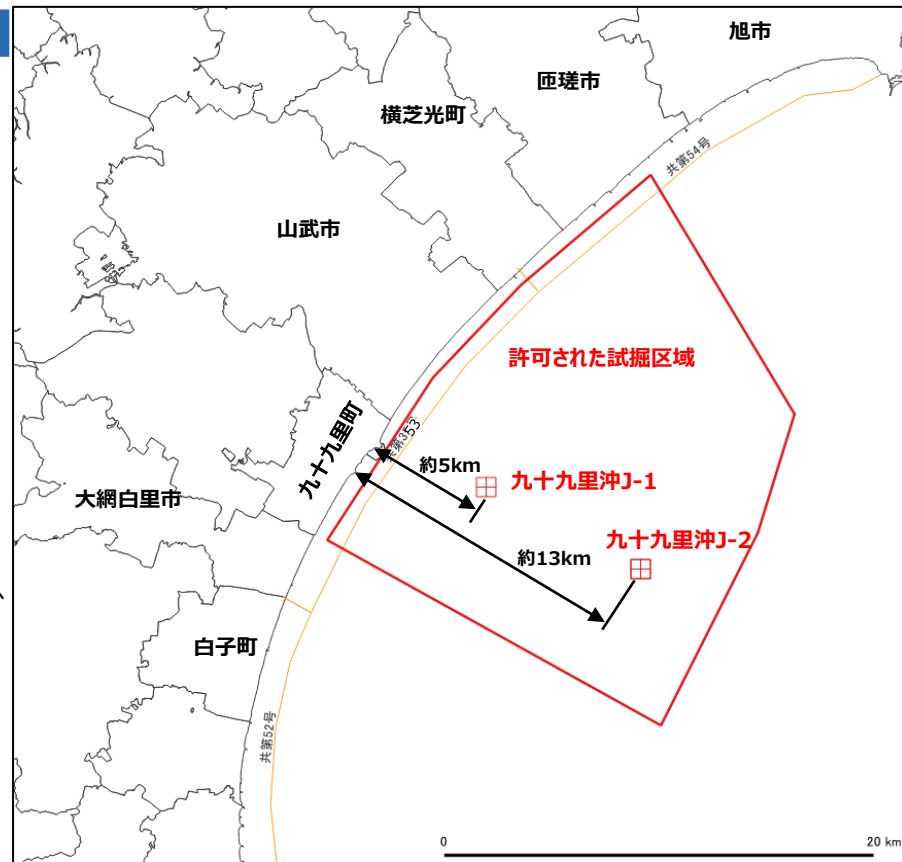
- 全長：約90 m（ヘリデッキ含む）
- 全幅：約65 m
- 高さ（海面上）約120 m

九十九里沖での評価井掘削計画

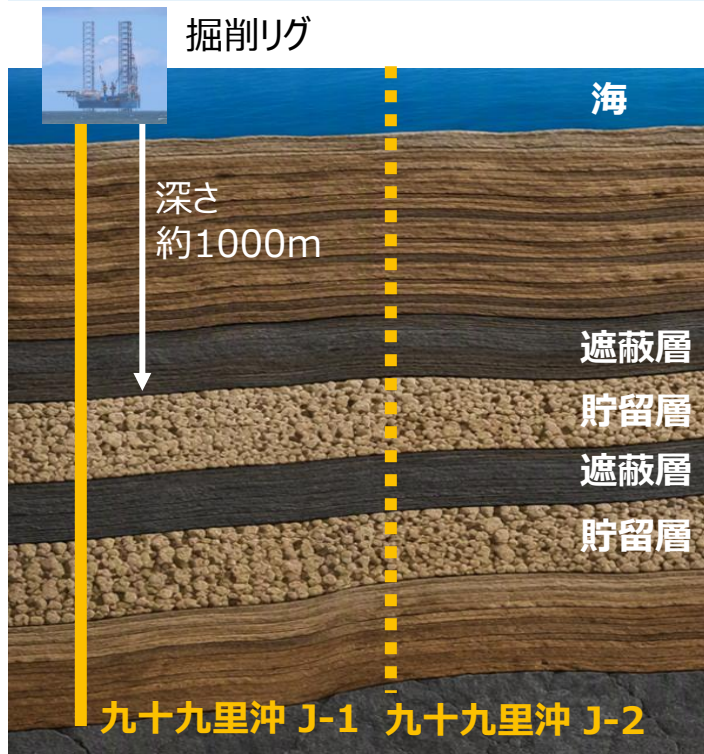
<評価井掘削計画の概要>

坑井位置	千葉県山武郡九十九里町沖合
坑井名	評価井1坑目：九十九里沖J-1 評価井2坑目：九十九里沖J-2
期間（予定）	評価井1坑目：4カ月間 評価井2坑目：3カ月間 ＊リグの設置/搬出期間を含む。
目的層*1	上総層群大原層の遮蔽層並びに浪花層から黒滝層までの貯留層及び遮蔽層
予定深度	評価井1坑目：深度約1,900メートル 評価井2坑目：深度約1,600メートル
掘削の方法	ジャッキアップ型掘削バージを用いて掘削する。九十九里町沖合約5キロメートルの位置にて評価井1坑目を掘削した後、掘削バージは沖合約13キロメートルの位置に移動し、評価井2坑目を掘削する。
周囲への安全措置	掘削バージの設置・掘削の作業前には周辺海域で操業する漁業関係者等に作業内容と留意事項を説明するとともに、掘削中は、周辺を航行する船舶が掘削バージに誤って接近しないよう警戒船を配置する措置を講ずる。

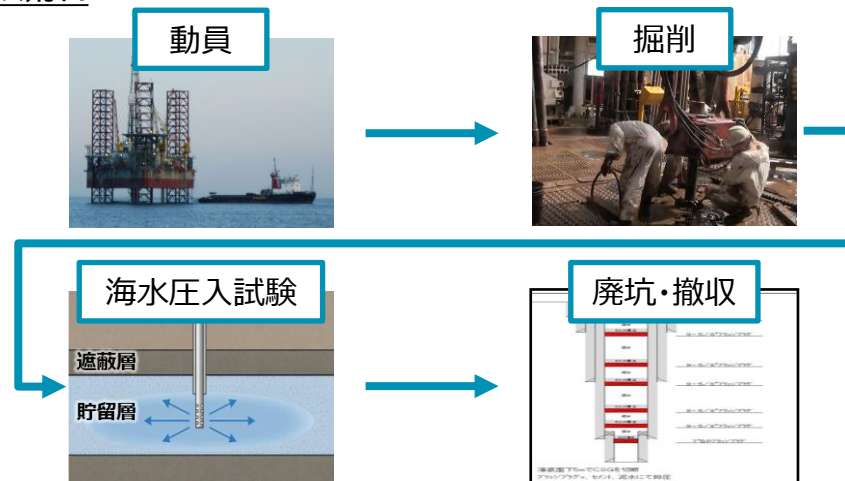
*1評価井掘削において主にCO₂の貯留・遮へい能力を評価する対象となる地層のこと



- CCSでは、CO₂を貯留できる十分な空隙と流動性を有する地層（**貯留層**）と、その上部でCO₂の逸散を防ぐ蓋の役割を果たす緻密な地層（**遮蔽層**）の両方が必要です。
- これらの地層の存在や性状を確認するため、実際に井戸を掘削し、地下の地層を直接調査します。



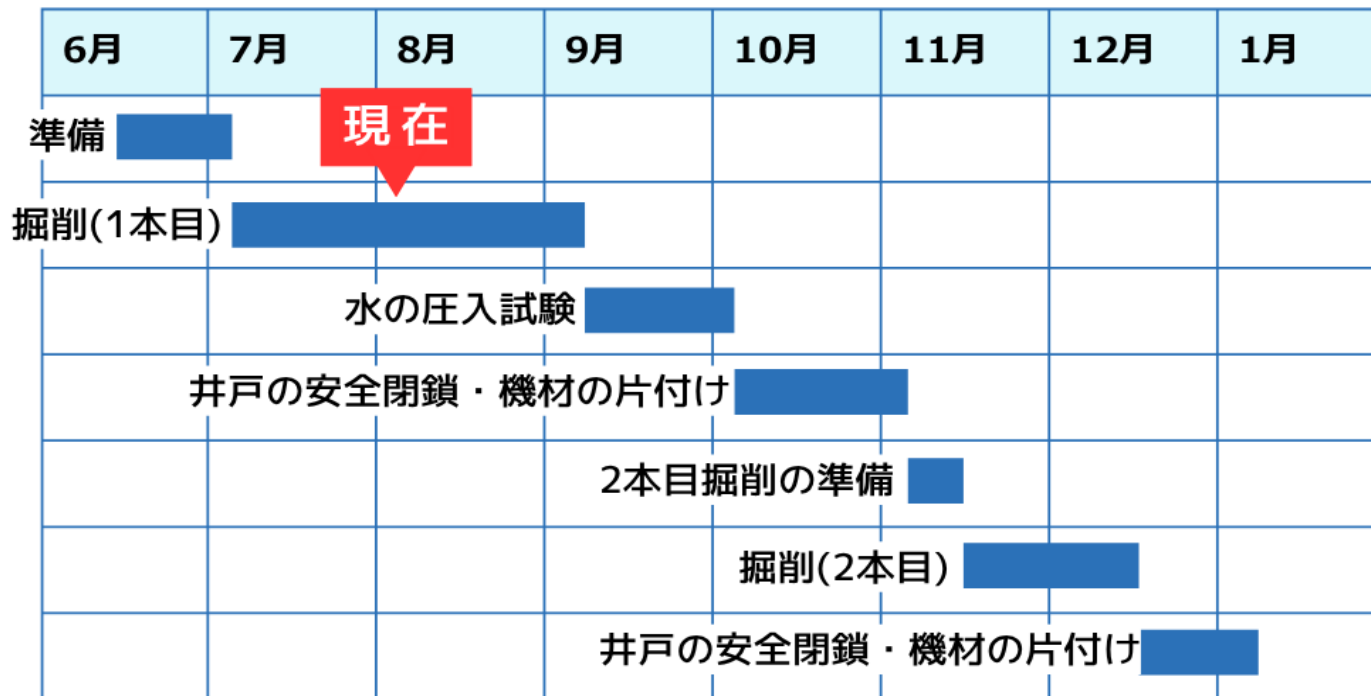
掘削の流れ



各井戸の役割

- 九十九里沖 J-1： CO₂を安全に地下へ貯留できるかを確認するため、地下の岩石や地層の性質を詳しく調査する井戸です。
- 九十九里沖 J-2： J-1で確認した地層が周辺にも広がっているかを調べ、どの程度のCO₂を貯留できる可能性があるかを評価する井戸です。

■ 評価井1坑目における作業は、令和8年11月上旬頃まで継続する予定です。



- 掘削リグやCCSに関する情報発信と、地域の皆さまとの対話の場として、九十九里町片貝漁港地先にCCSコミュニケーションセンター「うみとみらい」を開設しました。
- また、掘削作業の進捗や関連情報を地域の皆さまへ分かりやすくお伝えするため、定期周知文書「うみとみらい通信」を7月より発行しております。



住所：千葉県山武郡九十九里町小関2347-98番地先
開館時間：10時～16時
休館日：火曜日、水曜日、年末年始

第2号 **うみとみらい通信**
2026年8月1日発行
九十九里沖でCCS地下調査を開始 
首都圏CCS株式会社

うみとみらい通信について
私たちは、九十九里沖でCCS「二酸化炭素（CO₂）を地下に閉じ込める技術」が安全に実施できるかを確認するための調査を進めています。
地域の皆さまから、「どんな調査なの？」「安全なの？」といったご質問をいただいています。この通信では、調査の内容や進み具合、安全への取り組みについて分かりやすくお伝えしていきます。

今月のトピックス

- ✓ 7月6日に1本目の地下調査を開始しました
- ✓ 調査用の井戸を掘り、地下の状態を調べます



掘削装置（近くから見た様子）
掘削装置（夜の野手浜海岸からの様子）

今回の調査は何のため？
CO₂を地下に安全に長期間、閉じ込めるためには、それに適した地層の存在を確認する必要があります。そのために、調査用の井戸を掘り、地下の状態を調べます。
地下調査（現時点） → 安全性を確認 → CO₂貯留能力の調査

まずお伝えしたいこと

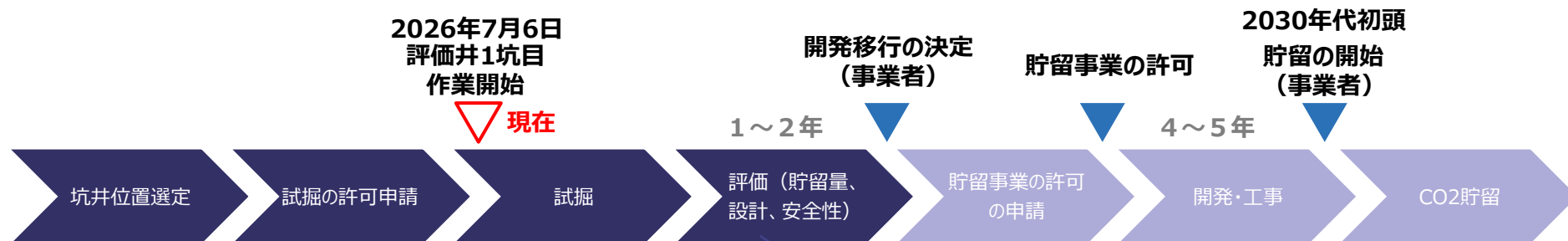
- ✓ 現在は調査段階です
- ✓ CO₂の地下貯留は行っていません
- ✓ 安全を最優先に作業を進めています

CCSとは
二酸化炭素（CO₂）を分離・回収し、地下深くに閉じ込める技術のことです。
大気中のCO₂を地下に閉じ込めることから、地球温暖化対策に有効な技術といわれています。

発行頻度：月1回
配布・回覧先：
九十九里町、山武市、横芝光町、匝瑳市、
大網白里市、白子町にお住まいの皆さま

評価井掘削から貯留“事業化”に至るスケジュール

- これから実施する評価井掘削およびその評価結果を踏まえ、事業化の可否について判断を行います。
- 貯留区域における検討と並行して、陸上CO₂パイプラインの調査・設計を実施いたします。

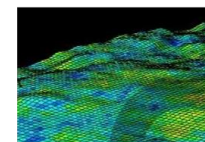


掘削期間 (予定)

- 九十九里沖J-1 : 2026年7月から同年11月 (約4ヶ月)
- 九十九里沖J-2 : 2026年11月から2027年1月 (約3ヶ月)

* リグの設置/搬出期間を含む。

地下構造・性状モデル (イメージ)



貯留シミュレーション (イメージ)

